

お茶の間交信

おんし ～恩賜財団母子愛育会会長表彰を受けて～

平吹 京子 (保健師、お茶の間交信編集委員)



保健師として、またお茶の間交信編集委員として指導いただいております平吹京子さんが、恩賜財団母子愛育会会長賞を受賞されました。今回は、長井市の子育て支援業務に関わって、日頃感じていることなどについて寄稿いただきました。



こんにちは。

去る令和4年10月27日、島根県松江市において、「令和4年度健やか親子21 全国大会」が行われ、その席上で「社会福祉法人恩賜財団母子愛育会会長表彰」を賜りました。

全国各地から44名の該当者がおり、山形県からは平吹が一人でした。

保健師として働いてきて50余年になりますが、この賞は、私たちのような母子保健関係に携わるものにとっては大変名誉な賞と受け止めています。

12月の長井市報に掲載いただきましたが、地域の方々からどのような賞か分からないと尋ねられました。よって少しここで、恩賜財団母子愛育会について説明をします。

社会福祉法人恩賜財団母子愛育会は、子どもと母性の保健・福祉の増進をねらいとする社会福祉法人で、1934年(昭和9年)に、当時の皇太子(現上皇)明仁親王誕生を記念する「御下賜金」をもとに設立されました。本部は、東京都港区南麻布5丁目、現総裁は、秋篠宮妃紀子様で、会長は、羽毛田慎吾氏です。

日本の母子保健関係の事業の発展を牽引する重要な役割を担っており、私たちにとっては大げさなようですが雲上の組織のような感覚です。

このような賞をいただきましたのも、長井市の行政および地域の皆さまのご協力があってのもの感謝しております。

これまで長井市で携わった事業や所感をお話します。

平成18年6月に定年退職後東京都から長井市に転入してきて、翌19年2月、長井市中央公民館(当時は生涯学習プラザ内)の「親子あそびの広場 りんごひろば」のお手伝いを皮切りに、現在まで長井市をはじめ、近隣市町の子育て支援に携わることができました。

前勤務地の東京都杉並区は、人口50万人、年間出生数約4000人、核家族90%以上で、一人の保健師担当人口は1万人でした。

山形県は3世代同居率全国1位であり、同居していなくても、近隣に住んでいる祖父母の存在が大きく、子育てに大いに関与があることにはびっくりしました。その関与が、時にはママたちにいろいろな思いをさせることの実を目の当たりにしては、やはり何とかしなくてはと本当に思いました。

市の乳幼児健診へ参加、子育て支援センター「まご〜れ」の育児相談、「共育セミナーなかよしくらぶ」の子育て相談、お茶の間交信子育てQ&A、直接お会いしての相談などを通して、まだまだ古い考えというか、時代は進んでいるのにと考えさせられる事案に遭遇することが多々ありました。



初回相談ではもちろんのこと、その相談者のその後がどう解決していったかのフォローをきちんとすることによって、少しずつ自信をもって子育てに向かえる姿勢に変わっていく様子をキャッチすることができて大変うれしかったとともに、やはり私はこの子育てに関わる仕事が大好きなのだあと改めて感じた日々もたくさんありました。

もう一つ大きな仕事になったのは、啓蒙活動の子育てに関する講演会でした。平成19年10月頃から近隣市町や杉並区から依頼があり、子育て講演会や就学時健診での講演、各施設父母会・祖父母会・保育士会等の講演です。令和2年7月までの13年間で117回を数えました。私も、もう後期高齢者になるところで、自分としては十分やりましたという感じです。

講演の話の始めは、「子育て卒業証書は、いつ誰からもらう？ 子育て通信簿は、いつ誰からもらう？」と、皆さんにお聞きして一緒に考えてもらいます。そして「子育ての目標は？」で親として子どもへの関わり方の重要性、「自己肯定感」をもてる育て方、そしてこんな困った育て方についても、「甘えと甘やかし」「ほめ方・しかり方」の例示をたくさん出してみんなと一緒に考えてきました。育ちの中で、ほめられたり抱きしめられたりした記憶がないため、自分の子を抱きしめたり、どうほめていいのかわからないというママにも何人か会いました。「育ったようにしか育てられない」のです。そのままにしておくと、そのママの子はまた同じようにできないと悩むようになります。自分の育ちの辛かった気づきをそのままにせず、専門の方に相談してほしいと思います。

「子育ての主体はその親であり、祖父母は補助者である」ことも特に力を入れました。ママたちの会では、ぜひ祖父母会に来て話してほしいと、いろいろな所で依頼されたのはとても印象に残っています。

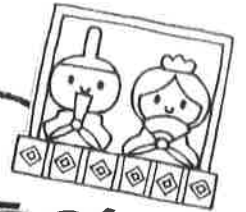
今は、だいぶ無くなってきましたが、左利きのお孫さんのクレヨンの持ち方を祖母が熱心(?)に右手に直しているのを見て、脳との関係や矯正することの心の問題、遺伝が関係していることなどを丁寧に説明して理解してもらいました。その翌日、お孫さんのママが左利きだったのを矯正されたそうで、



ママから、直させないでくださいと頼まれたと話してくれました。ママは、もっと早くに言いたかったのではないかと思うと複雑な気持ちになったのを覚えています。

いろいろな、そして沢山のママと子どもに会えて、年月が過ぎても街なかで声を掛けてもらえてうれしい限りです。

この賞をいただいたことは、私の長い間の母子保健事業の仕事の集大成となり、大変光栄に思っています。支えていただいた関係者の方々には本当に感謝にたえません。ありがとうございました。



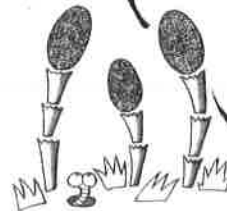
～親子で作ろう～ ♪デコレーション寿司♪

【材料 4人分】

- ☆ごはん800g (酢 大さじ4、砂糖 大さじ2、塩 小さじ2)
- ☆卵2個 (砂糖 小さじ2、塩少々)
- ☆ツナ缶1缶 (醤油 大さじ1、砂糖 大さじ1) ☆絹さや10枚

★作り方★

- ①ツナ缶はフライパンで炒め、砂糖、醤油を加えて炒める。
- ②絹さやは、すじを取りさっとゆで、斜めの薄切りにする。
- ③卵はよくほぐし、調味料を入れ、いり卵にする。
- ④ケーキ型にラップを敷き、下からいり卵、すし飯1/2、ツナ缶、残りのすし飯を段々に重ねて、ぎゅと押さえる。
- ⑤お皿の上で④をひっくり返して出し、絹さやを飾る。



子育てのワンポイントアドバイス

Q：4月から子どもを保育園に預け、自分も仕事復帰する予定です。今でもさえも精一杯の毎日なのに不安でいっぱいです。入園までに準備しておくことや、親としての心構えがあったら教えてください。
(10か月男児のママ)

A：初めての育児をしながら家事もこなし、それに加えて仕事復帰という、全部上手くこなしていけるのか、不安定な気持ちお察しいたします。

まず今は、仕事復帰、入園前のお子さんと過ごせる貴重な日々を、大切にゆったり過ごされてはいかがでしょうか。お子さんと一緒に遊んだり、絵本を読んであげたり、添い寝トントンしてあげたり…。お母さんがゆったり関わることで、お子さんの気持ちも満たされて安心すると思います。お母さんの不安は不思議とお子さんに伝染するということもあるかもしれません。

入園する園で、説明会や一日入園等があり、入園までに準備する物等、説明があると思うので、それから準備できると思います。先輩ママの知り合いがいたら良いアドバイスがもらえるかもしれませんね。

園の先生方も、新入園児さん、お母さん方が安心してお子さんを預けられるよう、慣れて園生活を楽しめるよう、お母さんと連携して信頼関係を築いていきたいと願っています。わからないこと心配なことは、どんな小さなことでも安心してお話くださると良いと思います。また、連絡帳や送迎の際などは、「今朝早く起きた。」「少し鼻水が出る。」「うんちがゆるい。」等の体調の変化に関することや、「こんなことできた。」等のエピソードも先生方と分かち合うことで情報を共有できたり、育ちの喜びを共有できたり、悩みの解決につながったりすると思います。先生方とつながったり、同じ年齢のお子さんを持つお母さんと知り合いになれたり、お母さんの世界も広がっていきますよ。

お母さん自身が園生活を期待し楽しみにしていると、お子さんにもきっと伝わりますよ。仕事も家事も完璧を目指しすぎず、お父さんや家族にも手伝ってもらったり、「できるところまででいいや」くらいに思って、気負いすぎず、今の時をお過ごしくださいね。



料金受取人払郵便

長井局承認

473

差出有効期限
令和5年5月
31日まで

〒993-8790

長井市屋城町6番53号

長井市中央コミュニケーションセンター
お茶の間交信返信 行

